

認知症を

よく理解するための

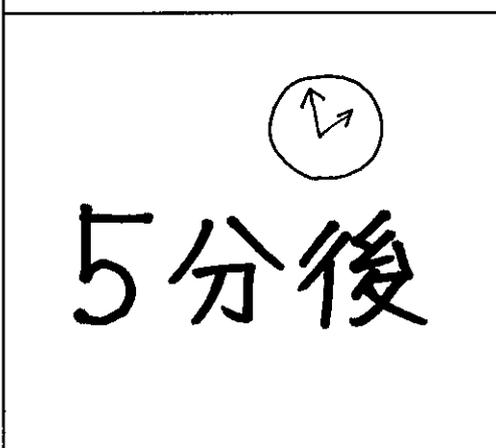
9大法則・1原則

飯綱町認知症初期集中支援チーム
飯綱病院作業療法士

中村章子

第1法則
記憶障害に関する法則

記銘力低下: 話したこと、見たこと、行ったことを、直後に忘れてしまうほどのひどいもの忘れ。



全体記憶の障害: 食べたことや見たことなど、体験したことの全体を忘れてしまう



第2法則
症状の出現強度に関する法則

より身近な人に対して認知症の症状
がより強く出る

記憶の逆行性喪失: 現在から過去に
さかのぼって忘れていく。昔の世界
に戻っている



第3法則
自己有利の法則

自分にとって不利なことは認めない



第4法則
まだら症状の法則

正常な部分と認知症として理解すべき部分とが混在する。



第5法則
感情残像の法則

話したり、聞いたり、行ったことはすぐに忘れる(記銘力低下)が、感情は残像するように残る。理性から感情の世界へ



- ①ほめる、感謝する
 - ②同情(相づちを打つ)
 - ③共感(「よかったね」を付け加える)
 - ④謝る、事実でなくても認める、上手に演技をする
- では、一コマ目から、次にどうするかの一例を挙げてみましょう。もちろん、これが正解というわけではありません。選択肢はたくさんあります。



怒鳴られた内容は記憶に残らず、怒鳴られた時の不快な感情だけが残ります

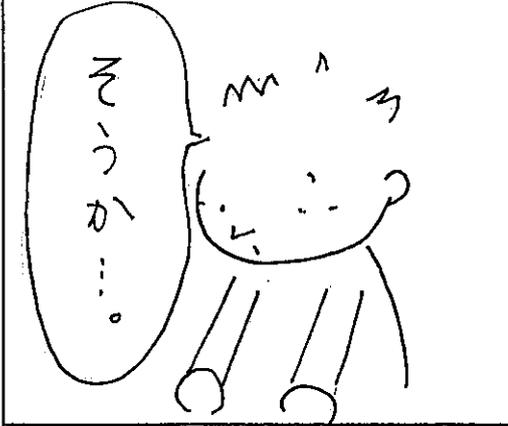
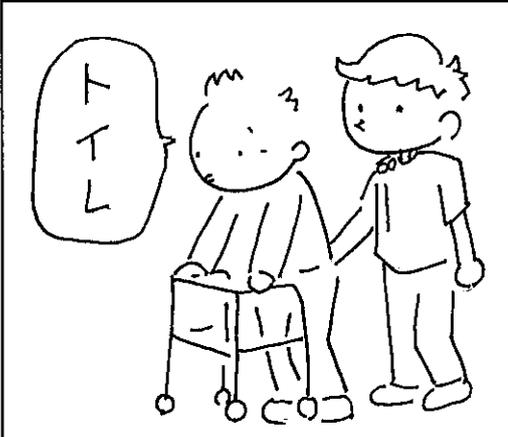
散歩により気分が晴れば、心地の良い感覚が残る可能性があります

第6法則
 こだわりの法則

- ①こだわりの原因を見つけて対応する
- ②そのままにしておく
- ③第三者に登場してもらう
- ④場面転換をする
- ⑤地域の協力・理解を得る
- ⑥一手だけ先手を打つ
- ⑦認知症の人の過去を知る
- ⑧長期間は続かないと割り切る

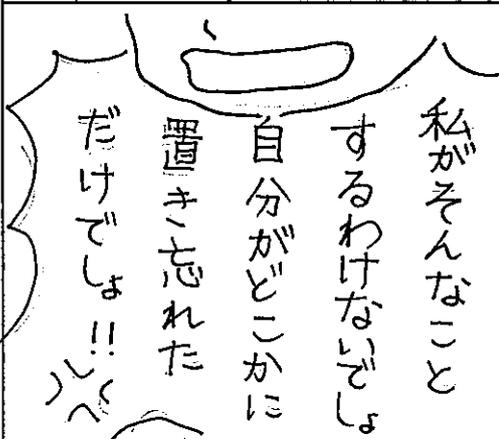
オムツしていたとしても
 トイレに行ってみたら
 違うかもしれません。
 (本当はあまり使わない方がいい言葉です...)

看護師さんに登場
 してもらって、
 上手くいったことも
 あります。

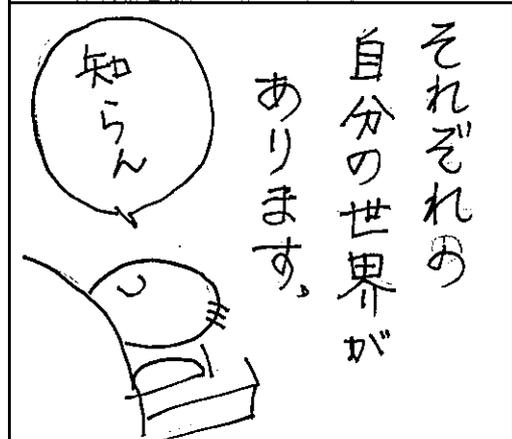


第7法則
作用・反作用の法則

強く対応すると、強い反応が返ってくる



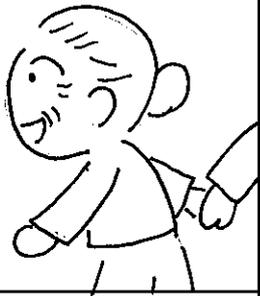
第8法則
認知症症状の了解可能性に関する法則



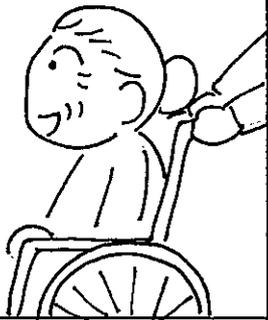
第9法則
衰弱の進行に関する法則

認知症の人の老化の速度は、認知症になっていない人の2~3倍と非常に速い

大変だけど。



苦労するけど。



一緒の
時間は、



案外
短い。



介護に関する原則

認知症の人の形成している世界を理解し、大切にする。その世界と現実とのギャップを感じさせないようにする

